

東中野本通り共栄会（その3）

今年は昭和で言うところの80年。60年前の昭和20年は山手大空襲があり東中野一帯は焼土と化しました。私はその時期中国に出征していましたが空襲時の模様は知りません。昭和21年復員した時その惨状を見て愕然としました。共栄会の通日も、焼けずに残った数軒を除き往年の店や住宅の姿はありませんでした。そして戦後の闇、配給と言った暗黒の時代から脱却し、やがて高度経済成長の波に乗り、新宿副都心に近いという好条件にも恵まれて、この地域は年を経るに従って活況を呈して来ました。

その共栄会は、戦後間もない昭和22年11月、未だ本格的建築も出来ない仮小屋の店も含め、往年の商店街を取り返すべく立上がりました。そして戦後60年着実に一步一步歩み、今日の共栄会の町並みが出来ました。平成14年3月2日には地域密着路線バスが開通し、JRと共に交通は便利になりました。又、この1月には『街路灯』が完成し、商店街として益々その色を添えて来ました。現在の共栄会に加盟している会員は106名、住民の方々と共に街の発展に寄与しています。



（現在の東中野本通り共栄会）

小滝の泉（その1）

本題に入る前に『小滝』の地名を明かすため「日本地名大辞典」（角川書店）と言う日本全国の地名について書かれた本を見ると、『小滝町』『小滝橋』という名が出てきました。そこでこの「小滝」の語源はどこから来たのか、小滝橋の項を見ると「神田川」から来ている事がわかりました。

往年の神田川は古地図を広げると一目瞭然で、田野を蛇行して流れ随所に堰所がありました。その堰から落下する様は小さな滝の様であったところから、この名がつけられたようです。



昭和15年頃の小滝の泉（写真左側）

言うまでもなく「落合橋」別称「姿見橋」とも言われそれぞれ言い伝えがありますが、本題から外れますので省略いたします。

従って「小滝」と言う名称は公的には神田川から来ておりますが、我々が居住する

「東中野五丁目」は昭和7年10月1日、東京市中野区となつて以来、昭和41年9月まで「小滝町」と呼ばれていました。神田川も河川工事が完成し、語源である滝もなくなりました。しかし町の名前は「小滝」、町の中にはそれに相応しい名前の場所が別にありました。

